

宇野千代をまちづくり

安達尚子



宇野千代が九十八歳の長寿を全うして早十九年。そして、あと一歩で故郷岩国に建設されるはずだった宇野千代記念館（建築界のノベル賞と言われるブリックアワードを昨年受賞した坂茂氏設計）建設計画が白紙撤回されて十五年の歳月が流れました。

当時の岩国市のこの上ない非礼にもかかわらず、継承者藤江淳子様から膨大な資料の提供を賜り、シンフォニア岩国での「宇野千代

の世界展」が実現いたしました。記念館が夢と消えた悔しさと絶望の中、みなで一丸となって取り組み、大成功を収めることが出来ました。あの熱気が懐かしく思い出されます。

この時の展示は全資料の三分の一だったそうです。岩国は愚かにも貴重な資料をいただく機会を逃してしまいました。

宇野千代生家で開催中の特別展



さて、岩国における宇野千代を巡る現状はいかがでしょうか。幸い、宇野千代生家は市に買い取られました。NPO宇野千代生家によって管理運営され、全国から旅人やファンが大勢訪れ、岩国の観光になくてはならないスポット、というより、癒やしの場になっています。

また、宇野千代顕彰会も全国展開の宇野千代読書感想文コンクール（昨年で十六回、今年は来年の没後二十年、再来年の生誕百二十年に向けての準備のためお休み）や、もみじ茶会等のイベントで、顕彰活動を展開しています。

しかしながら、白紙撤回以降、

宇野千代継承者と市当局との関係は没交渉のままで（いわば婚約解消したのですから当たり前です）生家や顕彰会と継承者の市民レベルの交流と信頼関係が、宇野千代と岩国をつないでいるのが現実です。

市内の至るところに「錦帯橋を世界文化遺産に」という幟が目立つようになりました。

「桜も日本一、錦帯橋も日本一、こんな岩国を故郷にもつ私は日本一のしあわせもの」と公言して憚らな

岩国市川西にある宇野千代生家は明治期の建物で、国の登録有形文化財に指定されています

らなかつた宇野千代が、おおいなる岩国の宣伝ウーマンであったのを皆様はご存知でしょうか。

生家や顕彰会にかかわる市民も年々老いて参りました。私は縁あって現在、事務局を承っておりますが、顕彰活動の行く末を考えると、不安と焦燥に駆られることも多くなりました。

ですから、八月中旬に市議会の

地方創生総合戦略調査特別委員会が、市長に提出された二十事業の中に、「市の歴史や輩出された偉人の紹介及び錦帯橋資料館となる総合博物館の建設」に、頓挫している宇野千代記念館も含めるといふ文字をみたととき、希望の光が射し、本当にうれしく思いました。

岩国のこれから、顕彰活動の行く末を案じながら、この春、顕彰会の元鳥祥次会長は逝きました。

長年、宇野千代の顕彰に心血を注いできた保田名誉会長は、総合博物館の中に宇野千代の居場所が与えられることを楽しみにしています。

何より岩国市と継承者の信頼回復が、宇野千代を岩国の宝として生かすカギとなります。錦帯橋、吉川文化に加え、文学のかけあひふれるまちづくりのため、市長さん、どうかよろしくお願いいたします。（宇野千代顕彰会事務局）

宇野千代生誕百十八年もみじ茶会

- とき 平成27年11月21日(土)10:00~15:00
 - ところ 宇野千代生家(岩国市川西2丁目)
 - お茶券 500円(抹茶、お菓子、生家入観料を含む)
 - 主催 宇野千代顕彰会
 - 共催 岩国茶道連盟、武者小路千家山口官休会
岩国支部、NPO法人宇野千代生家
 - 後援 岩国市、岩国市教育委員会、岩国市文化協会、岩国の文化を育てる会
- 専用駐車場がございますが、限られたスペースですので、最寄りの停留所より徒歩にてお越しくださいようお願い申し上げます。
生家では「宇野千代の言葉展」も好評延長中